

高原の縄文王国 収穫祭

10月16日、井戸尻史跡公園において「高原の縄文王国 収穫祭」が開催され、大勢の来場者で賑わいました。

会場では、石器づくり・石うすでの粉ひき・貫頭衣の試着など当時の生活を体験したり、手づくりの土器で炊いた五穀粥や古代米のおにぎり（ハスの実入り）・お餅、鹿肉焼きなどの他、トン汁のサービスもあり、お腹もいっぱいになりました。



ステージでは、落合小学校と富士見太鼓の皆さんの太鼓演奏や、縄文笛コンサートが行われ、縄文の里はのどかな響きに包まれました。

収穫祭の最後を飾る「神話再現」の舞台は今年で四話め、「富士山の神・コノハナサクヤヒメが火中で三つ子を出産する」という土器の造形から想像されるストーリーが祝詞と土笛の演奏にのせて演じられ、会場からは大きな拍手がわきました。また、「くく舞」のくくとは、不死のシンボルで月の象徴として崇められていた蛙のことで、当時もこのような舞が行われていたと思われます。



紫色の古代米、アワ、キビなどを直火で1時間半ほど煮込んだお粥

……太古の世界に思いを馳せて……



コノハナサクヤヒメの火中出産神話の舞台



くく舞

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより



五味 温
東京都八王子市
(小六出身)

富士見町の皆さん、こんにちは。お元気で活躍のことと思います。

私は富士見町を離れてまもなく五十年、八王子市に居住して四十年になります。

今年三月に九十五才で他界した母の事などを始め、古里（小六）に足を運ぶことが多く、古里を離れて初めてのことと
思う。葬儀、法事と合わせ、お墓の掃除、新盆に備えて住人のいなくなった家の中の掃除、庭木の刈り込みと結構忙しく働いたその折々、子どもの頃こんな母の手伝いをしたかなあ と一人苦笑いしながら。

春には八ヶ岳山麓に山菜採りに、七月には岡工

スケート部OB会のゴルフ、八王子の仲間と富士見高原でのゴルフ、三井の森でのゴルフの帰りのおつこと亭での食事、境中学の同年会（上諏訪）と遊びの方も忙しく、選挙運動中の元気な矢嶋町長（後日、インターネットで再選を知る）にお会いできたり、境小学校当時の恩師三井昭繁先生（乙事）の訃報など、帰省中のニュースでした。

朝晩の涼しさ、炎天下の暑さはともかく、すつと汗が引く日蔭の涼風の心地よさは、私の住む八王子では体験できません。これからも東都高原富士見会の会員の皆さんと、古里を愛し、豊かな自然から滋養強壯の源をいただき、がんばりたいと思います。